九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

近代日本における韓国表象 : 主に教科書分析を通して

朴,素瑩

https://doi.org/10.15017/1654603

出版情報:九州大学, 2015, 博士(比較社会文化), 課程博士

バージョン:

権利関係:全文ファイル公表済

氏 名: 朴素瑩

論 文 名 : 近代日本における韓国表象 ―主に教科書分析を通して―

区 分:甲

論文内容の要旨

本論文の目的は、近代日本で刊行された初等中等教育用国語・地理・歴史科目などの学校教科書および教師用指導書から韓国表象を抽出することに努め、それらに表象された韓国認識が支配イデオロギーによってステレオタイプ化する過程を考察することにある。

本論は大きく9つの章から構成されている。

序章では、本研究の問題意識を提示した上で、先行研究を概観しつつ、何が解明され何が解明されていないかなどを指摘し、さらに研究対象、研究方法について述べた。

第1章では、近代日本における教育と教科書制度の変遷、そして教科書が果たした役割をめぐって、主に唐澤富太郎と海後宗臣の研究成果を見据えて考察した。近代日本における公教育は支配イデオロギーの統制下であったこと、国定教科書制度実施により生徒の知識・思想体系に重大な影響を及ぼしたことを指摘した。

第2章では、まず教科書が国民の他国認識形成に多大な影響を与える論理的根拠を提示した。その前提の下で、支配イデオロギーを主軸とした思考体系と知識(「学校知識」)が集団化され、生徒に教科書を通して注入され、対象地域へのステレオタイプが生成されるプロセスについて考察した。

第3章では、近代日本の支配イデオロギーが韓国認識形成に如何に投入されたかを解明するために、韓国をめぐる言説の変容、巨大な言説として一般化された認識を考察した。政治指導者・教育者・歴史学者などオピニオンリーダーが発表した記事を通して、支配イデオロギーを投入した韓国をめぐる巨大な言説を確認した。

第4章では、小学校用国定国語教科書と教師用指導書の韓国関連内容、教科書記事と関わる言説の分析を通して韓国表象を考察した。韓国の風俗・自然風景や都市などを取り扱いつつ、<前近代一近代>という尺度から表象化することで、日韓併合による植民地経営の当為性と成果として、「近代化されねばならない韓国」表象を解明した。

第5章では、小学校用国定地理教科書と教師用指導書、中学校用地理教科書の韓国関連記事、それと関わる言説の分析を通して韓国表象を考察した。その際、植民地支配に動員された地理学が韓国の地理的な要素をどのように変形し、韓国を表象したかを詳論した。進化論と環境決定論の観点から韓国植民地化の論理基盤を与え、資本主義的な観点から韓国の産業化と基盤施設の増加を正当化することで、日本の「有用な植民地的な道具」として表象した。民族主義的な観点に立てば、韓半島全体に皇国臣民イデオロギーが浸透していると宣伝することで、日本国内向けに植民地確保による<富力の増強>イメージを作りだし、民族意識の高揚を図ったと論述した。

第6章では、小学校用国定歴史教科書と教師用指導書の韓国関連記事、それと関わる言説の分析を通して、韓国表象の変遷を考察した。古代から近代まで始終一貫、日本と中国に従属する韓国表象を強調しながら、韓国の安定、日本の発展、東洋の平和のために「韓国併合は必然であった」という論理的根拠を生み出したと究明した。

第7章では、第3章から第6章で取り上げた韓国における言説、国語・地理・歴史などの学校教科書・教師用指導書に盛り込まれた韓国認識を総合的に考察した。日本・中国との外交関係において他律的・受動的な韓国表象を浮き彫りにしつつ、韓国社会の前近代性・後進性、韓国民族性の否定的な側面を強調する意図に注目した。'国利民福'のために実施されたという日韓併合への論理に正当性を付与する要素として、これらの韓国表象が動員されていると推断した。

結章では、まず各章の要旨を簡述した上で、近代日本が初等中等教育用教科書で取り上げた韓国表象は、植民地化かつ植民地経営を正当化し、論理的根拠を与える教育政策上で不可欠であったが、その一方で韓国での教育政策の変化にも注目する必要があり、特に1922年から原則的には内地用教科書が韓国でも使用可能になったことを忘れてはならない。つまり近代日本の学校用教科書に認められる韓国表象は、日韓併合の合理化のための否定的な韓国観強調、併合による韓国人の福利増進、韓国が編入されることで増大した日本帝国の富力、東洋の平和追及などに総括できるが、その中に投入された支配イデオロギーは次第に日本人と韓国人を一体化する途を辿り、そして日本から韓国に向かう他者認識、韓国から韓国に向かう自我認識が一つの束に作り上げられるように支配イデオロギーが作動していたという結論に逢着した。